

みょうけんやま えんとつ 妙見山の煙突

ひらかたしじんけんせいさくか
枚方市人権政策課

こうりだんちいったい せんじちゅう ほうだん へいきようかやく せいぞう こうり
香里団地一帯には、戦時中、砲弾などの兵器用火薬を製造する「香里
せいぞうしょ ちゅうごく せんそう げきか しょうわ ねん
製造所」がありました。中国との戦争が激化してきた、昭和14年（1939
ねん う じ かやくせいぞうしょこうりこうじょう かいせつ
年）に「宇治火薬製造所香里工場」として開設されました。

う じ かやくせいぞうしょ ぞうだい かやく じゅうたい せいけい じゅうてん
宇治火薬製造所では、増大する火薬の需要に対して成型や充填の
さぎょう しんこうじょう けんせつ ひつよう ひこうき と う じ ちゅうしん
作業には新工場の建設が必要でした。飛行機を飛ばして宇治を中心
てきち さが ふきん じんか すく こうつう べん ひらかた
に適地を探したところ、付近に人家が少なく、交通の便もよい枚方の
な すづくり なかぶり きゅうりょうち み やま たに てんねん ひだ
茄子作・中振の丘陵地を見つけました。山と谷が天然の壁をなし、



ばくはつじ こ さい ゆうばく ふせ どれい やくめ ちけい そつこく しんこうじょう けんせつ けつてい
爆発事故の際、誘爆を防ぐ土塁の役目を果たす地形でした。そして即刻、新工場の建設が決定、
しょうわ ねん ねん がつ ようち ばいしゅう どうねん がつ おうしょくやくあつさくこうじょう かやくせいぞうさぎょう
昭和14年（1939年）1月には用地を買収し、同年12月には黄色薬圧搾工場で火薬製造作業が
はじ
始まりました。

かたまちせん がつけん と し せん ほしだえき ひきこみせん う じ かやくせいぞうしょ きづえき けいゆ かたまち
片町線（学研都市線）星田駅から引込線がひかれ、宇治火薬製造所とは木津駅を経由して片町
せん なら せん むす かやくるい ゆそう かたまちせん おおさか こうり ひらかた う じ むす かやく
線・奈良線で結び、火薬類が輸送されました。片町線は大阪ー香里・枚方ー宇治を結ぶ火薬な
へいきるい ゆそう だいどうみやく こうりこうじょう けんせつ ともな かわごしりょう かんこうりょう
どの兵器類を輸送する大動脈となりました。香里工場の建設に伴い川越寮・菅公寮・
くわがたにりょう こうだりょう こういんりょう じゅんじけんせつ
桑ヶ谷寮・高田寮などの工員寮も順次建設されました。

こうりこうじょう しょうわ ねん ねん がつついたち とうきょうだいにりくぐんぞうへいしょうこうりせいぞうしょ どりつ
香里工場は昭和17年（1942年）3月1日、東京第二陸軍造兵廠香里製造所として独立し
ました。140 h a の敷地、大小230棟の建物を有し、約5,000人もの工員が働いていました。

う じ せいぞうしょ おく しめ かやく かんそう ほうだん ばくだん つ かんせいひん さぎょう
宇治製造所から送られてきた湿った火薬を乾燥させ、砲弾や爆弾に詰めて完成品にする作業
ちゅうしん こうりだんち たてもの ゆいいつ いいん のこ
が中心でした。香里団地にはその建物が唯一、医院として残っています。

みょうけんやま はいすいち のこ えんとつ せいしきめいしょう とうきょうだいに りくぐんぞうへいしょうこうりせいぞうしょだい
妙見山の配水池に残るこの煙突の正式名称は「東京第二陸軍造兵廠香里製造所第3
き かんばえんとつ せきたん た えんとつ かやく か き げんきん かんそう
汽罐場煙突」といいます。石炭を焚いたボイラーの煙突です。火薬に火気は厳禁で、乾燥には
つく ねつ りょう かやく かんそう
ボイラーで作ったスチーム熱を利用して火薬を乾燥していました。

えんとつ てっきん せい たか やく ちよっけい やく えんとつ
この煙突は、鉄筋コンクリート製で、高さは約20メートル・直径は約2メートルもあり、煙突

りめん つづ
(裏面に続く)

うえ ほう てつ とつき だいに じ せ かい たい せん とき ぐん ひ こう き こうげき さ
の上の方にある鉄の突起は、第二次世界大戦の時にアメリカ軍の飛行機からの攻撃を避けるた
めに、木の枝をくくり付けて大きな木に見せかけるために付けた物です。

はいせん こうじょう へい さ しょうわ ねん ねん ちょうせんせんそう とくじゅ かやく
敗戦により工場は閉鎖されましたが、昭和27年（1952年）、朝鮮戦争の特需にのって火薬
せいぞうがいしゃ きゅうこうりせいぞうしよ はら さ しんせい おどろ ひらかたし ねやがわし こうり
製造会社が、旧香里製造所の払い下げを申請しました。これに驚いた枚方市・寝屋川市の香里
ち く じゅうみん はや かやくせいぞうしよさいかいかつようはんたい うんどう てんかい
地区住民は、いち早く火薬製造所再開活用反対の運動を展開しました。

ひらかたしちょう し ぎ かい ビーディーエー ふじんかい さいかいはんたい さけ こっかい せいふ ちんじょう
枚方市長・市議会をはじめ、P T A、婦人会などは再開反対を叫んで、国会・政府に陳情を
かさ しゅうぎんつうさんいん げんちしさつ はんたい はた こうり ち く う
重ね、衆議院通産委員の現地視察には、反対の旗とプラカードが香里地区を埋めつくしました。
はんとしいじょう およ ねば づよ じもと はんたいうんどう みの よくねん がつ せいふ かやくせいぞうじよさいかい
そして半年以上に及ぶ粘り強い地元の反対運動が実り、翌年3月、政府は火薬製造所再開を
だんねん
断念しました。

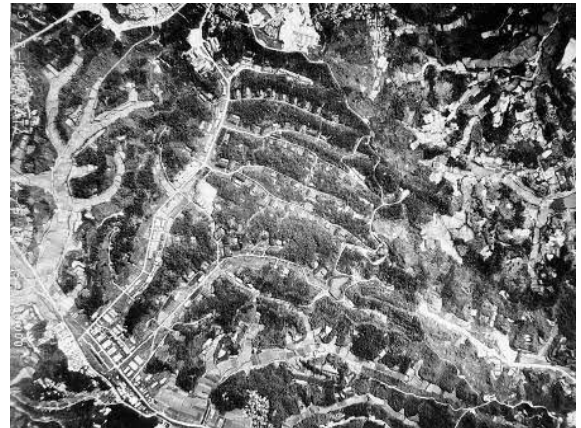
しょうわ ねん ねん にほんじゅうたくこうだん げん と し さいせいきこう つうしょう ユーアール せつりつ
昭和30年（1955年）に日本住宅公団（現 都市再生機構 通称「U R」）が設立されると、
とうちいき だい き ぼ じゅうたくけんせつ けいかく よくとし こうりだんち けんせつ きゅうせいぞうしよ
当地域に大規模な住宅建設が計画され、翌年、香里団地の建設がはじまりました。旧製造所の
たてものしせつ てつきよ きんだいてき いっぺん みょうけんやま いっかく だんちけいかく
建物施設は、すべて撤去され近代的なニュータウンに一変しました。妙見山の一角は団地計画
はず きゅうせいぞうしよき かん ば えんとつ てつきよ のこ
から外れたため、旧製造所汽罐場の煙突は撤去されずに残りました。

けむり だ じだい ふたた けむり だ く ひろ しみん へいわ あつ おも へいわ
煙を出していた時代。再び煙を出さないように繰り返し広げた市民の平和への熱い思い。平和な
じゅうたくち へんぼう すがた えんとつ みつづ
住宅地へと変貌した姿を、この煙突は見続けてきました。

ひらかたし しょうわ ねん ねん がつ おおさか ふ ない はじ ひかくへいわ と し せんげん おこな ふせん
枚方市は、昭和57年（1982年）12月に大阪府内で初めて「非核平和都市宣言」を行い「不戦と
へいわ えんとつ ほぞん へいせい ねんど ねんど
平和」のシンボルとして、この煙突を保存することにしました。なお、平成22年度（2010年度）
たいしんほきょうおよ ほしゅうこうじ おこな
に、耐震補強及び補修工事を行っています。



うしろ たてもの こうりせいぞうしよ へいせい ねん ねん と こわ
後の建物は香里製造所（平成19年（2007年）取り壊し）
ひらかたしぶんかざいかていきょう
（枚方市文化財課提供）



きゅうこうりかやくせいぞうしよ しょうわ ねん ねん
旧香里火薬製造所（昭和29年（1954年））
ひらかたしぶんかざいかていきょう
（枚方市文化財課提供）